

2 質問紙調査の結果から



ここでは、児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から、授業の中で「目標（めあて・ねらい）を示すこと」、「振り返る活動を行うこと」について示します。これまでの調査結果を踏まえ、県全体でどのような傾向が見られるか確認しましょう。

目標（めあて・ねらい）を示すこと

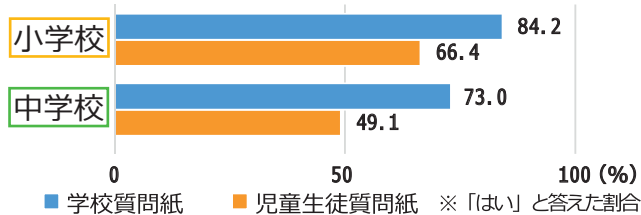
【学校質問紙】

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業のはじめ（H28からは授業の中）で「目標（めあて・ねらい）」を示す活動を計画的に取り入れましたか。

【児童生徒質問紙】

授業のはじめ（H28からは授業の中）で「目標（めあて・ねらい）」が示されていたと思いますか。

平成27年度 学校質問紙・児童生徒質問紙 調査結果（小・中学校）



振り返る活動を行うこと

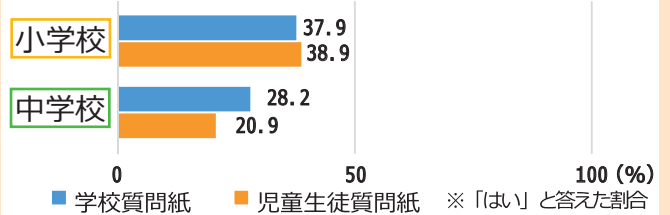
【学校質問紙】

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れましたか。

【児童生徒質問紙】

授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

平成27年度 学校質問紙・児童生徒質問紙 調査結果（小・中学校）



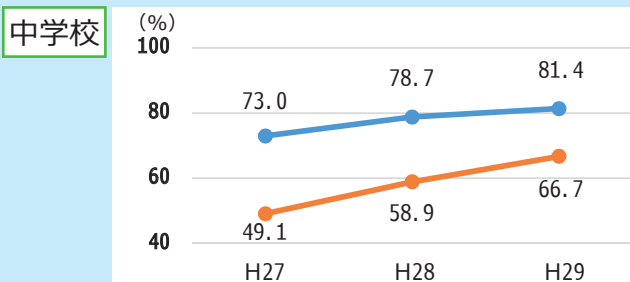
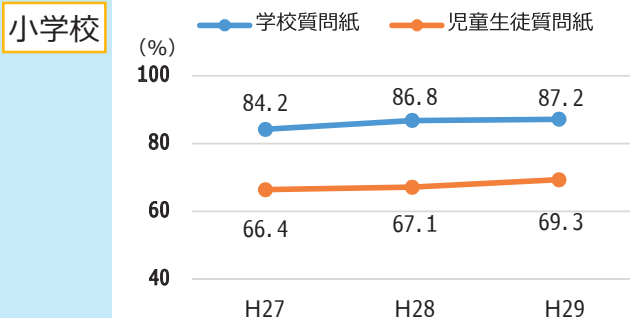
上記質問紙の結果から、「目標（めあて・ねらい）を示すこと」、「振り返る活動を行うこと」について学校と児童生徒の捉え方に差が生じていることが分かりました。これらの実態を踏まえ、県教育委員会では平成27年度に「授業改善に向けた3つの視点（以下）」のリーフレットを作成し、授業改善に向けた取組の提案を行いました。



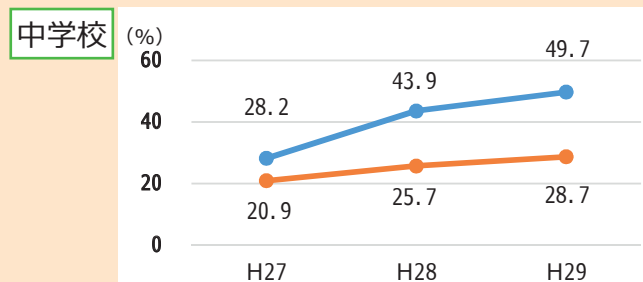
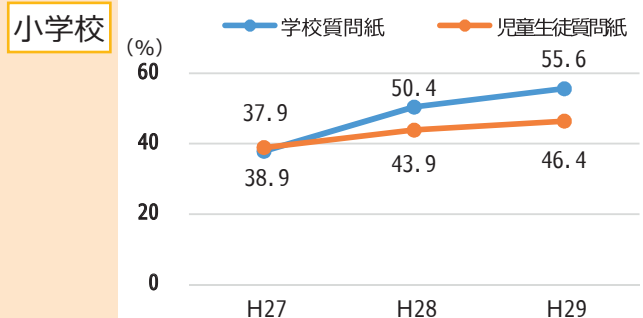
授業改善に向けた3つの視点

- 視点1** 授業の目標（めあて・ねらい）を子どもたちに示すこと
- 視点2** 授業を振り返る活動を行うこと
- 視点3** どの子どもにも自分の考えを書く習慣を付けさせること

平成27～29年度 学校質問紙・児童生徒質問紙 調査結果



平成27～29年度 学校質問紙・児童生徒質問紙 調査結果

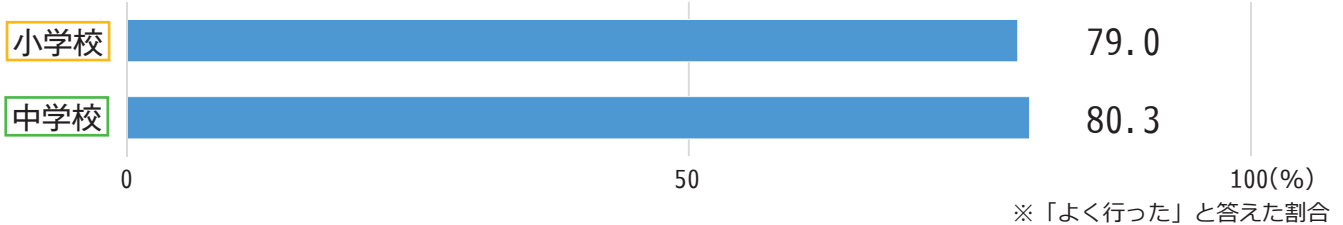


※H30以降、学校質問紙及び児童生徒質問紙においては、これらの質問項目がないため、H27～29の推移を示している。

令和3年度 学校質問紙 調査結果 (小・中学校)

「目標 (めあて・ねらい) を示すこと」と「振り返る活動を行うこと」について今年度の学校質問紙調査では、以下のような質問項目となっています。(今年度の児童生徒質問紙において、本質問に関連する項目は設定されていません。)

【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標 (めあて・ねらい) を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。(新規)



これまでの質問紙調査結果から、「目標 (めあて・ねらい) を示すこと」や「振り返る活動を行うこと」については、各学校において位置付けられつつあることが分かります。今後は、児童生徒がさらに主体的に学習に取り組むことができるよう、以下に示したポイントを参考に「授業改善に向けた3つの視点」の充実を図っていきましょう。

「視点1」「視点2」のポイント

視点1 授業の目標 (めあて・ねらい) を子どもたちに示すこと

○ 授業の中で示すことで学習意欲を高めたり、学習をどのように進めていくかなど、見通しをもって取り組ませたりするものとなるよう、児童生徒の体験と関連付けたり、これまでの学習内容を想起させたりするなどの工夫をしましょう。

(例) 教師と児童生徒のやりとりの中で示した「目標 (めあて・ねらい)」

※ 小学校 算数第5学年「C変化と関係」

学級の男子と女子ではどちらの方が一輪車に乗れるかを調べてみようと思いい、下のような表にまとめました。

一輪車に乗れる人調べ (人)

	乗れる	乗れない	合計
男子	9	6	15
女子	12	8	20



男子と女子、どちらの方が乗れると言えそうですか?

乗れる人は、男子が9人で女子が12人だから、女子の方が多いな。



男子と女子の合計人数が違うのに、乗れる人数で比べてもいいのかなあ。



それでは、今日のめあては「一輪車に乗れる人が、男子の中にはどれくらいいるのか、女子の中にはどれくらいいるのかを、それぞれ調べて比べよう。」にしましょう。



視点2 授業を振り返る活動を行うこと

○ 授業の「目標 (めあて・ねらい)」を踏まえ、学習活動を通して分かったことやできるようになったことなど、何を学んだのかを実感できるよう、評価問題を解かせたり、視点を示して学習したことを書かせたりしましょう。



「楽しかった」や「いろいろと分かった」等の漠然とした振り返りにならないよう、振り返る活動を工夫し、児童生徒が変容を自覚できるようにしましょう。

(例) 「振り返る活動」を行う際の教師の声かけ

- 今日の「目標 (めあて・ねらい)」を踏まえて、できるようになったことを書きましょう。
- 今日の学習でよく分かった (分からなかった) こととその理由を書きましょう。
- 今日の学習を通して、新たに気付いたことや考えたことを書きましょう。

発達の段階に応じて、決められた用語を用いて説明させることや、文字数を決めて書かせること、提示した適応問題を解かせることなども考えられます。

3 「確かな学力」の向上に向けて

本資料では、令和3年度全国学力・学習状況調査の「教科における調査（国語、算数・数学）」や「質問紙調査（学校、児童生徒）」の結果とともに、指導のポイントをお示しました。ここでは、「確かな学力」の向上に向け、学校全体で一層の充実を図っていただきたいことについてお示します。

○ 単元等のまとまりを見通した学びの実現

確かな学力の育成は、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して実現が図られるものです。そのため、単元や題材を通して身に付けさせたい力や目指す児童生徒の具体的な姿を明確にした上で、内容や時間のまとまりを構成していくことが大切です。指導に当たっては、1単位時間ごとの学びが単元や題材を通して身に付けさせたい力につながるよう意識しながら授業を実践していきましょう。

○ 定着度の計画的な確認と補充指導

学習内容の確実な定着を図るためには、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、場面や方法を工夫して、こまめに学習状況を見取ることにより、実態の把握に努めることが大切です。さらに、把握した実態に基づき、適切な内容やタイミングで補充指導を行ったり、家庭学習を課したりすることなどが考えられます。

これまでの調査結果の分析によって、下の学年の学習のつまずきが上の学年の学習に影響していることが分かっています。年度末に当たり、当該学年における学習内容を確実に定着させ、児童生徒一人一人の学力向上を図っていきましょう。

県教育委員会が、これまで作成・配布してきた指導資料や、文部科学省で作成している「全国学力・学習状況調査報告書」、「授業アイデア例」などの資料を、学習指導の改善・充実に向けて御活用ください。



主体的に考え表現できる子どもを育てるために
栃木県教育委員会（平成26年度）



とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために
授業改善に向けた3つの視点
栃木県教育委員会（平成27年度）



とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために
授業改善に向けた3つの視点Vol.2
栃木県教育委員会（平成30年度）



小学校報告書



中学校報告書



授業アイデア例

全国学力・学習状況調査 関連資料
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

※ これらの資料は、それぞれのホームページからダウンロードすることができます。

栃木県教育委員会事務局 義務教育課 学力向上推進担当
〒320-8501 宇都宮市埜田1丁目1番20号 TEL：028-623-3367 FAX:028-623-3399